

令和3年度第1回 香川県立図書館協議会

日 時：令和3年7月30日（金） 13:30～15:00

場 所：香川県立図書館 研修室

出席者：梅澤委員、岡委員、香川委員、川根委員、清國委員、黒川委員
森山委員、山本委員

欠席者：池田委員、石野委員

傍聴者：なし

1. 開会
2. 館長挨拶
3. 議長、副議長選任
4. 議長挨拶
5. 議題

(1) 令和2年度運営状況について

- ・事務局より令和2年度運営状況について説明
- ・承認
- ・質疑、下記のとおり

委 員： インターネット検索件数と貸し出し予約冊数は増えているのに、貸し出し冊数が減っている。これは、コロナの影響で予約なしで来る方が少なくなったということか。

事務局： 感染拡大防止、利用者間の間隔確保のために、4月19日から2月2日まで閲覧室内の座席数を減らし、机のある閲覧席数を半分にしたこともあり、来館者が減少したことによる。

委 員： 事業の中には、中止したのものもあるが、密を避けるために、これまでと比べ定員を絞って実施したので、利用者数が減っているという理解でよろしいか。

事務局： 図書館コンサートは今まで事前予約なしで、チラシ配布だけで200人ぐらい来ていたが、定員を超えてしまうので、事前募集をして、感染拡大状況に応じたその時々ホールの定員の限界まで入れた。

また、なるべく時間を短くということで、1時間程やっていたものを半分にしたり、人数も60名程度に減らし、回数を2回に増やすという形をとった。

内容による人数制限もあり、例えば、読み聞かせ講座は実習があるので、そもそも何十人も参加できるものではない。

委員： 以前は申込みなしで受入れていたものを制限しているけども、通常の講座はそれほど影響を受けていないということか。

事務局： これまで研修室でやっていたものを、広い視聴覚ホールで開催するといった工夫をして、維持できるように考えた。

委員： これまでにない気の遣い方をして事業をされていたことは想像に難くない。

(2) 令和3年度予算及び事業計画について

- ・令和3年度予算及び事業計画について事務局より説明
- ・承認
- ・質疑下記のとおり

委員： 非常に多彩な事業をされているので感心しているが、事業の周知はどういった形でされているのか。

事務局： 当館のホームページでお知らせする以外に、報道機関への資料提供を利用している。

委員： 県政記者クラブの投げ込みは、全部が全部とは言わないが、各新聞社に資料配布してもらって、その場で記者が、書く書かないを判断することが多々ある。大きな事業の場合はダイレクトに新聞社本社に情報が上がって来るので、情報共有出来るが、県政記者クラブのところで情報が止まってしまうケースが多々ある。

この事業計画を見て、恥ずかしながら自分が認識出来ていたのがほとんどなくて、あんなこともこんなこともしているのだと知り、これは県民の方にもう少し周知したらいいのにと思いながら説明を聞いていた。

もしできるのであれば、各新聞社の本社にも郵送でいいので資料を送れば、現場と本社で情報共有ができて、本社の方から記者に、原稿を書く予定がないが、こんなものがあるではないかと催促することもできる。

勿論、記者クラブから本社に上がってくるのがルールだが、非常に忙しいため後回しになることもあるので、もし可能であればそのようなこともお考えいただきたい。

コンサートは、こういうご時世だから、人数制限等色々考えてされているのだと思うが、県民に図書館を身近に感じてもらう、県民と図書館を結ぶ非常に有意義なツールなので、人数を絞った上で、回数を増やすとかを考えられても良いと思う。職員の方は大変だろうが、今、音楽家も公の場で発表することがほとんどないと思うので、図書館を身近に感じてもらう意味でも検討されてはどうか。

事務局： こちらから特にお願いしたいときには、教育記者クラブには、県の担当職員からお願いしたこともある。お伺いしたことを検討させていただく。

委員： 講座とか研修で、特に集合対面で開催しなければならないものは引き続きあるだろうが、今お聞きする中では、オンラインでの研修等は開催していないように受け止めた。

私が所属する研修所もオンラインで研修を実施すると、参加する人数はほぼ倍か、それ以上の申込みをいただける。気軽に参加出来る、利便性が高いということだと思うが、来館者が減少してくる中で、県立図書館としての機能の発揮の仕方として、オンラインは一つ武器になると考える。

オンラインの利用を検討しているけれども、何かの理由で一つ前に踏み出せないのであれば、その理由を伺いたい。

もう1点は、高等学校の先生もいらっしゃるが、新たな学習指導要領が来年度から完全実施され、探求の時間ができる。探求というのは、出かけてフィードバックする方が人気があるが、実際には、図書、資料を調べるといって地道な作業も、探求の中には必要だと思う。

そのあたりで、学校の先生方の支援をするのか、直接高校生を支援するのかというのがあるが、これも県立図書館としてその資料の効果的な使い方みたいなものが、高等学校向けに何か発信、提案されると良いと考える。

事務局： 県内公共図書館各館が加盟する香川県図書館協会は、6月に初任者研修を対面で開催するなど、今年度の研修は対面で実施することとしている。これまで、オンラインでの研修開催の実績がなく、ノウハウの蓄積もない。昨年県ではオンライン会議が可能なモバイルパソコンが導入されており、オンライン開催の体制が整備されているが、市町の図書館ではまだ機器の導入が十分に進んでいない。

今後、感染拡大の状況に応じ、また、市町のオンライン会議の機器の導入状況を考慮しながら、実施について検討していく必要があると考えている。

今年度初めて、子どもたちをお話の世界へという読み聞かせ講座の、オンライン開催を予定している。1回目は、講師の先生が大学においでで、参加者の方には当館に集まってもらい、講師と視聴覚ホールをオンラインで結ぶという形を取る。聞く人も自宅に居て、ズームで簡単にできるものもあるが、県のパソコンに載っているオンライン会議ソフトが Webex という限られたものなので、先生にも Webex のインストールをお願いして、まずはこのような形で取り組む。

内容にもよるが、今回、読み聞かせで本を読むのを直接聞くのは問題ないが、いわゆるインターネット上に載せるということと問題等々があって、講師の先生に断られた。今後も前向きに検討していきたいと思う。

委員： 確かに著作権の問題は、非常に微妙なところもあるので、それはよくわかる。

事務局： 高校との連携については、学習指導要領が新しくなって探究的学習に対して何か支援ができないか検討している。また、団体の貸出を小学校、中学校にしているが、高校への団体貸出で、こういった本を貸出すかも検討中である。そういつ

たことを含めて色々考えてみたいと思う。

(3) 図書館評価について

- ・事務局より図書館評価について説明
- ・承認
- ・質疑下記のとおり

委員： コロナの影響で入館者数はC評価だが、入館者数は少ないからダメではなくて、閲覧席数を減らすなど来館者を抑制した結果である。要するに、意図的に来館者を抑制したわけで、それを他の項目と同様に、目標を達成出来ていないからC評価とするのは、どうかと思う。そういう形で一律に評価するのではなく、本当に改善を要する項目と、コロナの問題で仕方のない項目とを選び分けないと、改善しなければならない項目が見えなくなってしまう。そこは改善のための評価なのだから再考すべきだ。今回は対応が難しいのでこれでも結構だが。

細かく項目を見ると、例えばレファレンス件数は、これはコロナに関係なく、むしろ増えてほしい項目で、改善を要する。

繰り返すが、図書館が意図的に減らしている状況がある項目についてC評価とするのは変であろう。もし増えたらその方が問題となる。入館者数についての項目は、C評価としないというような形で分けて、本当に問題になるところについて、きちっと評価すべきだと思う。

委員： ご提案をいただいたが、いかがだろうか。

私も同感で、感染拡大を防いだわけだから、評価すべきとも言える。学校に対しても、生徒が来館して密にならないようにと要請しており、山本委員の意見のように今回に関しては状況が異なる。

事務局： 同感ではあるが、ただ、評価というのは、最初自分たちが決めたルールであるので、C評価としたい。その上で、今後の取組みとして、周りの状況を踏まえて対応を検討していくという形に、今回はさせていただく。

委員： 評価は記載した上で、評価に対する委員の意見を但し書きとして付加えてはどうか。

事務局： 本日の協議会が、外部評価の場であるので、その内容は適切に盛り込みたい。

委員： そう言っていただくと、この会議の意義も高まる。

委員： 色々なことをされようとして、気配りしながらやられているのに、本当に感心する。

委員： 一生懸命やられているのに、評価がCとかいうと、辛いというか、かわいそ

うだ。但し書きで書いてもらったら良いと思う。

委員： 県立図書館が一生懸命取り組んでおられるのを今日初めて知った内容もあった。広報について小学校現場の立場から言うと、子どもたちを図書館に誘うきっかけになる、保護者の方に手っ取り早くその情報が伝わるように、県立図書館は各学校へお知らせとかチラシを送付してくれている。また、教職員に対しては夏に 1 回、各学校の図書館教育の中心を担う者の夏季研修会を行っているが、そこにも県立図書館の方がおいででチラシを配布してくださって情報提供いただいております、我々も有難いと感じている。

委員： 図書館職員の方は、コロナ禍以前に来館されていた方と、コロナ禍になってから来館されている方、そしてワクチン接種が進んだ段階となってから来館されている方の年齢層が変化したと感じているか。

事務局： 入館者数の年代別の詳細な分析はしていないが、新規登録者数について前年度と比較すると、0 歳から 12 歳が 32.7 パーセントの大幅減となっている。また 60 歳以上も 27.7 パーセント減っている。これを見ると感染を懸念される方々の来館を控える傾向が昨年度は表れている。今年度に関してはこれら年代についてもまた持ち直して来ると見ている。

委員： 中高生の読書支援で、読み聞かせボランティア講座は、本校でも応募多数で抽選になってしまったのだが、他のボランティア募集件数が半数以下に減っている中で、読み聞かせボランティア講座を実施してくださってありがたいと思っている。

探究活動に向けては、まだまだ手探り状態なのでまた相談させていただく。

委員： 図書館評価については、各委員から色々ご意見いただいたが、当初の設定ということもあるので、原案のとおり承認としたい。本日の委員の意見については、付帯意見として、図書館評価に付け加えていただくようお願いする。

(4) その他

- ・事務局より施設設備整備事業について説明

6. 閉会